

## 実践報告

## 札幌市立山鼻小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究

サッポロピリカコタンの施設見学と同施設の体験プログラムを活用し、アイヌ民族の歴史や文化などについて直接学ぶ体験学習

- 北海道の先住民族であるアイヌ民族の歴史や文化、思想について体験を通して学習することで、アイヌの方々の生き方について理解を深める。
- アイヌ民族の生き方から、人・もの・自然、あらゆるものに対する畏敬・感謝の気持ちを学び、お互いの「生命」を尊重し合うような態度を育てる。

### (2) 実践の内容

【実践】「札幌市アイヌ文化交流センター『サッポロピリカコタン』における体験学習」

○ねらい

- ・ 見学や体験的な活動を通して、アイヌ民族の歴史や文化についての理解を深め、尊重する態度を養う。

○学習内容

◎社会科「昔から今へと続くまちづくり」を通して

- ・ 子どもたちは、4月に行った社会科の地図の学習において、北海道には、不思議な読み方や読めない漢字の地名が多いことから、昔からアイヌの人たちが北海道の各地に住んでいたことを気付き、興味をもっていた。そして、今の山鼻がある前は、どのような生活をしていただろうかという課題をもって、本単元「昔から今へと続くまちづくり」が始まった。学習では、子どもたち自身が調べ、考えることを大切にすることで、「もっと知りたい！」という思いや「どうしてだろう？」という疑問をもつことができ、「サッポロピリカコタンで調べてきたい！」という意欲を引き出すことができた。

◎「サッポロピリカコタン」での体験学習

- ・ サッポロピリカコタンの方々からお話を聞いたり、疑問に思ったことを尋ねたり、体験的な活動を行ったりすることで、歴史や文化、思想を窺い知ることができた。

≪活動内容≫

1) アイヌ文化についての講話とアイヌの楽器・踊り

初めに、アイヌ語について子どもたちは学んだ。簡単な挨拶や数の数え方など、日常で使うことのできるものであった。この言葉は、この後の活動の際にも案内をしてくださった方が適宜使用していたので、子どもたちも自然と覚えることができた。

踊りでは、学年が円になって何度も繰り返し踊ることで、足の運び方や手の角度を互いに教え合いながら楽しむことができた。また、全員が順番に衣装を着ることができたため、刺繍の対称性や文様の意味について興味をもつ児童が多くみられた。

2) アイヌの昔遊び体験

「長縄跳び」「輪投げ」「輪取り」の三種類の遊びについて、指導を受け体験した。子どもたちは、遊びを楽しむだけでなく、「アイヌの子どもたちは、このような遊びを通して狩りの

方法を自然と学んだり、体力をつけたりしていることを知った」などと学んだことを振り返っていた。また、長縄では、最初に学んだ数の数え方を使用し、自分たちの跳んだ回数をアイヌ語で言いながら楽しむことができた。何度も反復して数えることで、数え方が定着していた。

### 3) 館内・館外施設見学

館内の見学では、衣類に使用されていた材料や楽器の種類など、子どもたちが疑問に思っていたことを案内の方に聞いたり、自分で調べたりと意欲的に活動することができた。また、今残っているトンコリが樺太から来たもので、元々北海道にあったものは途絶えてしまったということや、3弦や6弦のものもあったという話から「アイヌの文化の中にも、今の日本人と同じように様々なものがあった」と分析している児童もいた。

館外の展示では、チセの中に実際に入り、燻されたような匂いを感じる中で、「家の中で燻製を作るとこのように匂いが気になってしまうが、良いことはあるの?」を考えることで、家を燻すことで長く使用できる強い家ができることを学ぶことができた。また、川の流れを利用して、鹿威しの様にして脱穀などを行っていた様子を見て、「自然のものを神としてあがめるだけではなく、しっかりと利用している」と考えている児童もいた。

## ◎北海道博物館見学

- ・山鼻小学校がこの地に立つまでの歴史について、和人が住む前から今に至る歴史を展示してある資料を基に学ぶことができた。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・「わたしたちの札幌」から生まれた「アイヌ文化」に関する興味・関心をサッポロピリカコタンに行ったことで、さらに高めることができた。子どもたちは、アイヌの学習が終了した後もアイヌ民族について描かれた絵本を読んだり、家庭学習でアイヌ文様の意味について詳しく調べ、数人で集まって自分たちで作った文様で切り絵をしたりするなど文化について親しみをもつことができた。また、自分が必要な物だけをとるという考え方についても子どもたちは、強い興味を示し、今の社会で重要視されている自然愛護やエコロジーにつながるものであると考えていた。

#### ② 課題

- ・アイヌの人たちは、あらゆるものに感謝していたというところから、互いの「生命」を尊重するという部分は、サッポロピリカコタンの活用だけでは、厳しかった。そこで道徳など、他の学習で補った。また、ピリカコタンでは、館内見学をする中で子どもたちがもっと調べたいという意欲をもっていた。見学の時間を増やし、意欲に応えてあげる必要があった。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・どの学習にも関わることではあるが、「アイヌ民族の歴史や文化、思想の理解のため」にも、やはり子どもたちが興味をもって学習を進めることが大切であった。今回は、導入の際に子どもたちに意欲をもたせたことで、子ども自身が「もっと詳しく調べたい」「あれ、ここってどうなっているのだろう?」と教師が教えずとも互いに自分の疑問点や調べたことを伝えあっていた。これからの人権教育は、子どもに委ね、教師はサポートするという意識を大切にすべきであろう。